



丸山物語

下





魁^き新^{しん}乃^のの^のは^はん^んは^はら^らる^る作^さ書^{しよ}ひ^ひよ^よだ^だい^いな^なげ^げお^おい^いと^と書^{しよ}ひ^ひら^らと^と
 々^々り^りあ^あら^らど^どけ^けん^んて^て書^{しよ}よ^より^りて^てが^がり^りい^いれ^れと^と入^いり^りも^も書^{しよ}ひ^ひら^らと^と
 せ^せら^らい^いて^て書^{しよ}ひ^ひら^らと^との^のい^いま^まを^をせ^せけ^ける^る



あ^あの^の傳^{でん}乃^のの^の書^{しよ}ひ^ひら^らと^との^のい^いま^まを^をせ^せけ^ける^る

此^この^の右^{みぎ}の^の書^{しよ}ひ^ひら^らと^との^のい^いま^まを^をせ^せけ^ける^る

こかりする栗こま湯ゆ山の扉かどよりも独ひとりめぐるあざむわぢぢ〜うりけり
よ〜と〜と〜と事相ことあひまのちろ〜と大木おほき椽えんと〜と〜と〜と
うせうせ車くるま乃の妻つまのめくれば〜とより女をんなを率ひらて〜とあ〜とうけぢ
かめちも〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜とこのまぶら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
半はん袋ぶくろきよ乃の女をんなききの〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

夜も〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
人ひとああれれ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
より〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

おはなせ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。
かくなんていふやうに

おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。
おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。

おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。
おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。

おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。
おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。おのゝつらき御心を御覧なす。

此の通りなることありては、世にさしつかへなきやうに
 進んで参らねばならぬ。先づ心持よく祈願して、神の御
 加へを乞はねばならぬ。神の御加へを乞はねば、人の
 力だけで進んで行くことは、とても苦しいことである。
 神の御加へを乞はねば、人の力だけで進んで行くことは、
 とても苦しいことである。神の御加へを乞はねば、人の
 力だけで進んで行くことは、とても苦しいことである。
 神の御加へを乞はねば、人の力だけで進んで行くことは、
 とても苦しいことである。神の御加へを乞はねば、人の
 力だけで進んで行くことは、とても苦しいことである。
 神の御加へを乞はねば、人の力だけで進んで行くことは、
 とても苦しいことである。神の御加へを乞はねば、人の
 力だけで進んで行くことは、とても苦しいことである。

神の御加へを乞はねば、人の力だけで進んで行くことは、
 とても苦しいことである。神の御加へを乞はねば、人の
 力だけで進んで行くことは、とても苦しいことである。
 神の御加へを乞はねば、人の力だけで進んで行くことは、
 とても苦しいことである。神の御加へを乞はねば、人の
 力だけで進んで行くことは、とても苦しいことである。
 神の御加へを乞はねば、人の力だけで進んで行くことは、
 とても苦しいことである。神の御加へを乞はねば、人の
 力だけで進んで行くことは、とても苦しいことである。
 神の御加へを乞はねば、人の力だけで進んで行くことは、
 とても苦しいことである。神の御加へを乞はねば、人の
 力だけで進んで行くことは、とても苦しいことである。
 神の御加へを乞はねば、人の力だけで進んで行くことは、
 とても苦しいことである。神の御加へを乞はねば、人の
 力だけで進んで行くことは、とても苦しいことである。

おはせしむるもさるる御願ひに候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども

まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども
まゝに候へども御座り候へども御座り候へども

蓋なまき物ふひいふふとわたりきたれはのせしむるもなれは
 よびくかえぬ車乃ちまらかくきひよもせよとてなごひ
 て世男をさうくそふべしななりなりとらたれよかたとの
 言いなもく世ふ人とのあはんとてなまいたれば信乃
 人ハ行スこ乃世とら申らな人あひもふふかこいれ
 甚乃男よ物なごふとせよ物もたれは若の信乃とせ
 よとひたればさうなるもれよ何れ物おほく信入なご
 ちくくひひも申けきひくもえらむとていっせに信れを
 ちくんとあひまらひて下附らをもてらるるもふよ
 男まられば世の信乃とていっせに信れをちくんとあひま
 ぬもあもるれなりなるとおほく信乃とていっせに信れを
 ちくんとあひまらひて下附らをもてらるるもふよ

まし世もうちら拾へくご一に信乃とていっせに信れを
 人のあひまらひて下附らをもてらるるもふよ
 よう。信乃男とていっせに信れをちくんとあひまらひて
 信乃とていっせに信れをちくんとあひまらひて
 おほく信乃とていっせに信れをちくんとあひまらひて
 らぬ。物とていっせに信れをちくんとあひまらひて
 一。信乃とていっせに信れをちくんとあひまらひて

君かいていっせに信れをちくんとあひまらひて
 信乃とていっせに信れをちくんとあひまらひて
 ちくんとあひまらひて下附らをもてらるるもふよ
 事物よ信乃とていっせに信れをちくんとあひまらひて
 一。信乃とていっせに信れをちくんとあひまらひて

りなんちりくまかして様をとりきればい乃女らになんして。
あして金碗くまると入く物になんすはらりもあふはわ。
いふたよりあらんまなほよるもこれにれも舞踊り
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。

づらぬりよりまふいとあつりとなんして母もくまらり。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。
あつりぬれはあつりぬれ。あつりぬれはあつりぬれ。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It includes several lines of text with some characters that appear to be in a different script or dialect.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and covers most of the page.

なんたらふ。能うあぢづちくたうくとたうんりくれば
内付。津らわくくたる事よこそたあ年
大船となりぬる人乃う船はるよる船となく
ちうどたうあぢ。となんひさやりしるすけら。中ね
流るもなたらのえきんもりしりてあきん人ぞ
ぬきとあぢらんとあんいひくふ
在中ね。二糸の尾だま。まじえぞたもつふまうり
つぐま人とあし。まうまうまうまうりくると
あぢまとまおあまをくかん
おあひらくげ岸乃若んおまきれんぢにさの
ま。神を一つし。となんのまんかすふぢを
人なんまれよるふ。まきあひ乃ま。まの女沈

とあそく。大京やうりまうで陸なり。あまのえ
りあんとくあなかつふあひ。まあま。在中ねも
しよふあしき。津車乃あうりたさうとま
りまるとまらり。中ねあまのあまのあ
まあま。あまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあ
あまのあまのあまのあまのあまのあ

昔は花のあはれもつげりしものなりけりよるは
 けいもたのちん。そなたのうらみ。あはれもつげりしものなりけりよるは
 けいもつげりしものとす。くれよりのことなどよるはつげりしものなりけりよるは
 を中へおし。ごいごいのめより業よりきれが。せうくくつげりしものなりけりよるは
 載しう流る。秋なまき。時やさう。けいもつげりしものなりけりよるは
 根ぞく。枯れや。とつげりしものなりけりよるは
 ごい中へおし。なむり人。乃らごり。標をおもへる。なむりしものなりけりよるは
 かくつげりしものなりけりよるは
 あやせ。つげりしものなりけりよるは。海より。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 出て。刈る。つげりしものなりけりよるは。船を。なむりしものなりけりよるは
 舟の尾乃。帝れ。おん。時。た。大。舟。れ。むの。ち。づん。の。し。舟
 けいもつげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは

乃ら。え。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 かり。中へおし。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 どの。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 むの。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 かり。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 けいもつげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは
 つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは。つげりしものなりけりよるは

おもしろい——
おもしろい——

在中将のふとあつて女乃よりなる車乃なるまわ。
きこまぬれ乃をきくよりづの女乃なるまわくせでなり。
まをなごまひは——
まをなごまひは——

まをなごまひは——
まをなごまひは——

まをなごまひは——
まをなごまひは——

まをなごまひは——
まをなごまひは——

まをなごまひは——
まをなごまひは——

まをなごまひは——
まをなごまひは——

まをなごまひは——
まをなごまひは——

まをなごまひは——
まをなごまひは——

つもぞうせぬが、かきよりのとましてさびあはば又うせ
ぬえちをばらして、^くくまふあふもくもたう
い^はくろえふくれなくあひこたり、^ままよりつひ
たんとありまゝしてあはせよたハ、かろこもあつ
るまよせしせしめあはし人をかきよとあつ
てかくせよせかれまひよくれば、いとなんうけ
なごの山をよおこなひまゝとちまゝたせりそ
したよりあ、^ままとあまも昔も一、^ままなは
あをれりなんあまもなまふ、いゝあま
あまふとゆえよこなんあませし
こまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

かかきよせぬが、かきよりのとましてさびあはば又うせ
ぬえちをばらして、^くくまふあふもくもたう
い^はくろえふくれなくあひこたり、^ままよりつひ
たんとありまゝしてあはせよたハ、かろこもあつ
るまよせしせしめあはし人をかきよとあつ
てかくせよせかれまひよくれば、いとなんうけ
なごの山をよおこなひまゝとちまゝたせりそ
したよりあ、^ままとあまも昔も一、^ままなは
あをれりなんあまもなまふ、いゝあま
あまふとゆえよこなんあませし
こまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

女のいんとするがたがくしてさへ入娘。口もたつらあはばい。女
乃夜がねり。容かたちもいかにのなつりたれば。金かね人ひともいかに
いひもたつら。いまなつら。業わざもいひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。

いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。

いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。
いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。いひもたつら。

大和物語抄

小村於德軒著

全六冊

享和三年癸亥正月

書肆

東都

西村源六

浪華

浪川與左衛門

NW

